

春日井市民病院「脳卒中センター」の拡充 脳卒中ケアユニット（SCU）病床の設置

～脳卒中（脳梗塞・脳出血・くも膜下出血）患者さんへ安心できる医療を提供～

1 目的

脳卒中（脳梗塞・脳出血・くも膜下出血）は、発症後できるだけ早い時間内に治療を行うことや発症早期からリハビリテーションを行うことにより、その後の病状の回復具合が左右されることが判っています。その重要な発症早期の医療を効果的かつ効率的に行うために、脳卒中センターの機能を拡充し脳卒中ケアユニット（SCU）病床を院内に設置します。

2 日時及び設置場所

令和元年(2019 年) 7 月から試験運用し、9 月から本稼働を予定

市民病院西 5 階病棟に 6 床（551 号室・552 号室）



3 実施内容等

(1) 脳卒中患者さんを診る 24 時間 365 日の診療体制

脳卒中患者さんを 24 時間 365 日いつでも治療ができる診療体制を構築します。

脳卒中ケアユニットでは、脳神経内科医または脳神経外科医（専門医となって 5 年以上の医師）が常駐します。また、3 人の入院患者さんに対し常時 1 人以上の看護師配置を行い、手厚い看護体制を実施します。



(2) 多職種からなる脳卒中専門チームによる安全な医療の提供

春日井市民病院では、これまででも多くの脳卒中患者さんが発症前と同じ生活ができるようにという熱い思いを持って、治療にあたってきました。

脳卒中患者さんに、経験豊富な専門医、看護師、薬剤師、リハビリスタッフ（理学・作業療法士、言語聴覚士）、医療ソーシャルワーカーなど多職種からなる脳卒中専門チームによる安全で質の高い医療の提供を目指します。



4 過去の実績等

春日井市民病院では、平成 26 年度(2014 年度)に脳神経内科と脳神経外科が協力し、脳卒中患者さんに診療にあたる脳卒中センターを開設しました。

医師や看護師の配置などの国の基準を満たす脳卒中ケアユニットの設置は、県内の公立病院では半田市立半田病院について 2 例目です。